

2016年4月14日の夜以降、震度7や6強を観測する地震が相次いだ熊本県。被災した生協くまもとは、そこで暮らす人びとのくらしを守ろうと、全国の生協と協力しながら事業を継続しました。甚大な被害を受けた生協くまもとの店舗・コープ春日と、配送エリアに益城町がある熊本東支所の取り組みを紹介します。

店舗・コープ春日

前震そして本震…… 熊本を襲った震度7の揺れ

生協くまもとの店舗・コープ春日（熊本市）は、JR熊本駅から車で10分弱ほどの場所にあります。熊本地震の「前震」と呼ばれる震度7の揺れが襲ったのは、SM事業部 コープ春日 店長の磯本隆之さんが、閉店作業のため、店舗の事務所にいたときのことでした。

「最初は何が起きたのか分かりませんでした。気付いたらキャビネットが倒れそうになっていたり、棚の上に置いていたものが落ちてきたりして、ようやく地震だということが分かりました」

そのとき店内にいたのは、磯本店長のほかナイトマネージャー、レジスタッフを含め4人。店舗事業本部 SM事業部 部長の岩崎智之さんが、店舗に駆け付けたとき真っ先に目に飛び込んだのは、陳列棚から落ちた商品が床に散乱している光景でした。

翌日、支援のために生協くまもとの本部（水俣市）から20人余りの職員がコープ春日に到着。朝から店内の復旧作業を行いました。しかし、その最中にも「水だけで

「平成28年（2016年）熊本地震」の被災地にて 生協の支援活動

生協くまもと

店内に設置したメッセージボードには、たくさんの声が届いています（5月8日撮影）。



SM事業部 部長の岩崎智之さん（左）とコープ春日 店長の磯本隆之さん。

倒壊した家屋のそばを走る生協くまもとの配送車（日本生協連撮影）。



店内には被害の残っているところもありますが、「がんばるばい!くまもと」の気持ちで前を向いています。

全国から支援に駆け付けました!



ララコープ ララ矢上 夜間店長 立石耀平さん
「長崎でも余震で眠れない状態が続いたので、被災者のストレスは計り知れません。コープ春日の店頭で綿菓子を配っているとき「癒やされる」という声をいただきました。組合員の笑顔が見られるのが一番ですね」



エフコープ 人事部 人財開発課 担当 林 克則さん
「コープ春日のレジスタッフとして支援に来ました。組合員から「助かるわ」という声を聞くことができ良かったです。生協で働く仲間として、お手伝いできると思います」

も売ってください」という組合員が訪れたため、店頭でペットボトルの飲料やパンなどの食料品を提供。14時半の部分営業開始までの間、店頭での対応を続けました。

本震が発生した16日の未明。店内の片付けなどで疲れ切つて寝ていた磯本店長は、同じ震度7とはいえず前震とはまったく違う、桁外れの揺れを感じ、飛び起きたそうです。

朝を待ち、店舗へ向かうと、商品が再び散乱していたばかりか、ガラスや壁の破損、天井板の落下など被害が大きく、とても開店できる状況ではありませんでした。

しかし、前震の後、取引先や日本生協連から水やパンの支援を受けていたので、これらを店頭で無料提供。また、店内からカップ麺なども運び出し、安価で供給しました。

全国の生協の支援で感じる連帯の力

隣のどの店も営業していない状況の中、この取り組みは地域の人びとに大変喜ばれ、300人以上が行列をつくつたといえます。後日、組合員から涙ながらに「あのときは助かった。夫婦でパンを半分ずついただきました。ありがとう」と感謝されたときは、磯本店長も

らい泣きしそうになったそうです。また、コープ春日の駐車場にも被災者が車中泊をしていたため、「アクアララ」というウォーターサーバーを店外に設置。自由に利用してもらいました。

「生協のこうした行動には誠意を感じました」「食べ物も水もない中で、いち早く対応してもらったのは本当にありがたかった」など、取材時に買い物に来ていた組合員も口を揃えていました。

「今回、全国の生協からの支援を受けたことで、あらためてその連帯のすごさを感じました。まるで自分たちのことのように受け止めて奔走していただいた皆さんには、本当にただただ感謝です。また、被災しながらも出勤してくれた職員、パートさんたちにも感謝しています」(磯本店長)

5月2日にコープ春日は、売場の完全復旧を果たしました。

宅配・熊本東支所 地域の復興に向けて引き続きの支援を

大きな被害を受けた益城町・西原村および阿蘇地区一帯が配送エリアに含まれる熊本東支所(益城町)では、最初の地震があった4月14日の翌日から、商品のお届けと配送コースの確認、組合員の安否確認を行ないました。

「道路や家が崩れているところが多々、組合員さんのお宅にはなかなかたどり着けませんでした。着いても避難されている方が多く、商品のお届けは難しかったです。その話すのは、無店舗事業部 地区利用担当の杉森大樹さん。

地震から2週目の配送日を迎えた25日には、商品と共に「防災用買い置き CO・OP 商品セット」をお届けしました。杉森さんが商品をお渡しすると、「知っている人に会うと安心する」「本当に助かります」と避難所から自宅に戻った組合員の多くに喜ばれました。配送を終えた杉森さんは、少しでも早くいつもの生活を取り戻し、宅配を通じて組合員にお役立ちしたいと話します。

宅配の現場でも、コープこうべやコープCSネット、コープきんぎの会員生協など、全国の生協職員が同乗し、配送の支援を行なっていました。生協くまもとと全国の生協は、これからも共に被災地の復興に全力で取り組んでいきます。

(文 丸山泰武 / 写真 川上信也)

*1 コープCSネットの会員生協は鳥取県生協、生協しまね、おかやまコープ、生協ひろしま、コープやまぐち、とくしま生協、コープかがわ、コープえひめ、こうち生協の9生協。

*2 コープきんぎの会員生協はコープしが、京都生協、ならコープ、大阪よどがわ市民生協、おおさかバルコープ、大阪いずみ市民生協、わかやま市民生協の7生協。